

Saipan

Photo&Text **Kagii Yasuaki**

青い玉手箱
グロットの彩光

ダイビングエリアとして、常に注目されているサイパンの海。

ビギナーからベテラン、カメラ派まで幅広い層に支持されている。

今回はサイパンでのダイビングの代名詞とも言うべき「グロット」に注目してみた。

名物の111段の階段の先にある大きなドームは、

青くて美しい世界への入り口。

エントリーして外洋のほつに振り向くと、そこには大きな3つの光が存在する。

薄暗いなかで見る青い光は様々な箇所に滲み、神秘的な空間を創造する。

サイパンに海の色を象徴する「グロットブルー」の魅力に迫る。

外洋の光がこぼれ、水面に映る青い光が天地を迷わす。「グロットブルー」の美しい舞台



ドームの至るところに青い光は存在する。
エントリーする前に見る景色



グロットの青い光に導かれ、ちょっとした冒険ダイブが始まる



早朝、カメが外洋へと泳ぎ去る



111段の階段の先にあるエントリー場

薄暗い水面に浮かび上がる 青い泉へ

有名な長い階段を降りて、大きな洞穴の中央にある楕円形の岩からエントリーする。

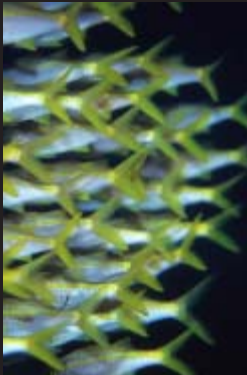
水中に身を潜めると薄暗い大きな空間の先に、窓のような3つの青い穴が見える。その窓からこぼれる青い光は、薄暗い海底、転がる巨岩、そして魚たちなどに映り、幻想的な世界を創造している。青色ばかりが強調されるその空間は、すこし深遠の海底のようにも思える。

私が最も心奪われたのは水面に滲む青色。水中から見上げたその光は、深度や角度を変えることによって、様々な表情に変化する。それはまるで青い砂漠のようであり、また川の流れるのようにも見える。

同じ光をエントリー前にも確認することができる。陸から見るその光は、薄暗い水面に浮かび上がった青い泉のよう。美しく、どこか抵抗感のある青色に惹かれる。



青い光は魚たちを照らす(上)
アカヒメジがまるで蠟燭のよう
に並び、泳いでいた(左)



水中に広がる光の神殿



グロットは地元も子供たちの遊び場でもある。光に包まれる幸せ。なんて羨ましい幼少時代なのだろう

季節でグロットを楽しむならば、夏の午後が好い。エントリー口の大きな空洞の真上に太陽が上り、夏の強い日差しは水面に突き刺さる勢いでダイレクトに海中に飛び込んでくる。無尽の光は、連波の連続で拡散し、水中に光の神殿を造り上げる。その光景をいちばん最初に作品にしたのは水中写真家のSAMMY氏だった。初めてその写真を見た時、陸上ではまるで想像も付かない世界に嫉妬心すら覚えた。そして夏のグロットの持つ短い輝きを感じた。外洋に向けて、左にある一番大きな穴に潜り近づいていくと、目の前でどんどんと青の面積が広がっていき、気が付くと全身が明るい光に包まれている。まるで夢から目覚めたような新鮮な気持ちになる。

後ろを振り向くと、そこにはただの大きな穴が開いているだけで、さっき見た青い光はどこにも見当たらない。やはり夢を見ていたのだろうか、そんな気持ちにさせられる。

様々な角度や時間、そして季節から、サイパンの海の色的美しさを再確認させてくれる「グロット」。それは不思議な青い玉手箱のようだ。



ドーム内から見上げる夏の日差しは、まるでナイフのよう



上空から見たグロット周辺の風景。中央に見える道の円が駐車場で、その左隣の穴がグロット入り口

緑の自然溢れる岬の先端に
青い玉手箱
グロットは存在する。

